

問 国際交流の推進について

答 新規都市との国際交流を始めたい



新政とうかい
まっえ ひであき
松江 秀明 議員

問 アイダホフォールズ市との姉妹都市交流について、どう評価しているのか。

答 アイダホフォールズ市とは延べ1000人以上の住民が訪問団として相互往来し、40年超に及ぶ親密な関係を継続発展させてきた。本村としては、長年の交流が非常に有意義であり、国際理解と友好の深化に貢献してきたと高く評価している。

一方、参加者の固定化、一般訪問団参加者の減少傾向などが課題と認識している。

問 今後の姉妹都市交流の展望を伺う。

答 アイダホフォールズ市との親密な関係を大切にしつつ、多文化共生社会の実現やグローバル人材の育成を目的として、新たな都市との国際交流を始めたいと考え、今年度から「国際交流都市調査選定事業」を立ち上げ、候補地となり得る海外都市について調査を始めた。それに加え新たな国際交流の足がかりとなる住民ベースの交流や機運の高まりなどを踏まえ、本村の交流先としてふさわしい都市を選定したい。



ダンスで多文化共生
東海ダンスフェス2024 スペシャル

問 窓口に軟骨伝導補聴器の導入を

答 総合相談支援課窓口にまず導入



公明党
おかざき さとる
岡崎 悟 議員

問 高齢化に伴い難聴の方も増加している。難聴になると耳から脳に伝達される情報量は、極端に少なくなり認知症発症のリスクが高まる。対策として聴覚補助器の活用が有効で、今回庁舎窓口に設置を求めている軟骨伝導補聴器は、これまでの「気導」や「骨伝導」とも異なる。また、通常のイヤホンや「骨伝導」と比べて、耳穴をふさぐことなく、軟骨付近に軽く添えるだけで音を拾えるため、痛みや音漏れが少なく、外耳道閉鎖症や小耳症の方など、一般的な補

聴器の使用が難しい方にも、体への負担が少ない補聴器として期待できることから窓口での導入を求める。

答 軟骨伝導補聴器は、利用者の身体的負担が少なく、プライバシーの保護にもつながることから、県内外の自治体窓口で導入が増えている。住民の利便性向上が期待できることから、総合相談支援課の相談窓口で試験的にまず導入し、利用者の声や頻度を踏まえて、他の窓口設置を検討したい。



総合相談支援課窓口に10月8日から導入された軟骨伝導補聴器